

2020年3月期決算説明会 主なQ & A

[経営体質の抜本的強化]

Q： 具体的な内容は。

A： コロナウイルス感染症拡大に伴う社会の構造変化を想定し、従来進めてきた地方移住、サテライトオフィス、E コマース（JRE MALL や iLumine 等）について、連携を含めて強化していく。また、CBM や自動運転等への取組みを加速させて固定比率の高い鉄道事業のコスト構造を変えていく。

Q： 設備投資の見直しやコストダウンの検討の規模感は。

A： 2020年度の維持更新投資は、2019年度実績から1割程度の見直しを検討している。営業費用は、新技術の導入や警備費用等のコストの見直し等を行っていくものの大幅なコストダウンを直ちに実現することは難しい。

Q： 定期運賃のあり方について現行の運賃制度下でどのような検討を行っていくのか。

A： 現在の運賃制度は、国鉄時代の運賃制度を引き継いでおり複雑でシステムコストがかかる制度である。法制面での国との協議もあるため直ちに実現することはできないが、コロナウイルス感染症拡大に伴う社会の構造変化を想定し、運賃制度そのものをどう抜本的に変えていくかを考えていきたい。一例としては、テレワーク等の働き方に合わせた新しい商品の提供等が考えられる。

[JR北海道への支援の考え方]

Q： JR北海道に対する支援のスタンスに変化はあるのか。

A： 従来のスタンスから変更はない。JR北海道に対して、人的支援や観光支援等は引き続き行っていくものの、財政的な支援は考えていない。コロナウイルス感染症拡大に伴う影響を踏まえて、鉄道事業者全体としての国に対する様々な要請については、JR他社や民鉄各社と連携して取り組んでいきたい。

以 上